

2018年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、ベーリング海周辺でブロッキング高気圧が発達し、北米～大西洋上で波列パターンが見られた。日本の南東海上では正偏差、中国北東部では負偏差となった。200 hPa 風速をみると、偏西風は日付変更線付近で北に蛇行し、北米大陸～ヨーロッパ北部では平年に比べて強かった。亜熱帯ジェット気流は東アジアで平年に比べて強かった。海面気圧をみると、アラスカ周辺、米国東部～ヨーロッパ西部、中央アジア周辺で正偏差、カナダ北部～ヨーロッパ北部、中国北東部で負偏差だった。日本の南東海上では太平洋高気圧の張り出しが平年に比べ強かった。850 hPa 気温をみると、東シベリア東部周辺、米国東部、ヨーロッパ南部、ロシア西部～西シベリアで高温偏差、カナダ西部、モンゴル周辺で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、ニューギニア島付近、北太平洋中部の北緯10度帯～中米北部で活発、北インド洋付近～南シナ海北部、日本の南東海上で不活発となった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬～中旬は不明瞭で、下旬後半には南米付近に見られた。対流圏上層では、太平洋西部では高気圧性循環偏差、インド洋では低気圧性循環偏差が、それぞれ南北半球対で見られた。対流圏下層では、太平洋西・中部では低気圧性循環偏差が南北半球対で見られた。アラビア海～ベンガル湾のモンスーン循環に伴う西風は、平年と比べて弱かった。海面気圧は、インド

洋で正偏差、太平洋～大西洋で負偏差となった。南方振動指数は-0.9だった。

世界の天候

2018年9月の世界の月平均気温偏差は+0.31°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、5番目に高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.65°C/100年（速報値）である。

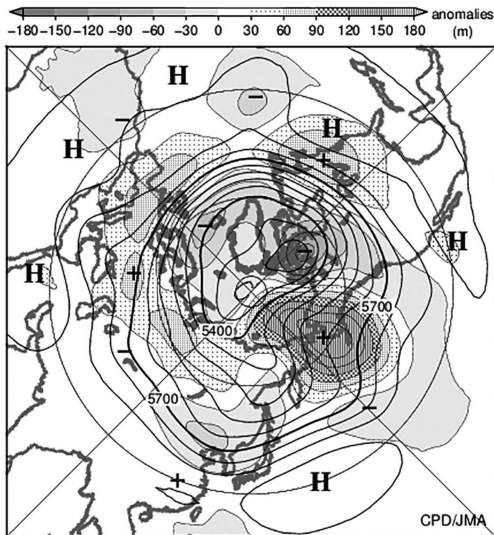
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- ロシア南西部及びその周辺、中東南部～ヨーロッパ南西部、米国北東部～メキシコ南東部、ブラジル東部～チリ中部で異常高温となった。
- モンゴル南部～中国北部、カナダ中部及びその周辺で異常低温となった。
- 西日本及びその周辺、中国北東部～カザフスタン北部、アルジェリア北西部及びその周辺、米国北東部～中西部、米国南部～メキシコ西部で異常多雨となった。

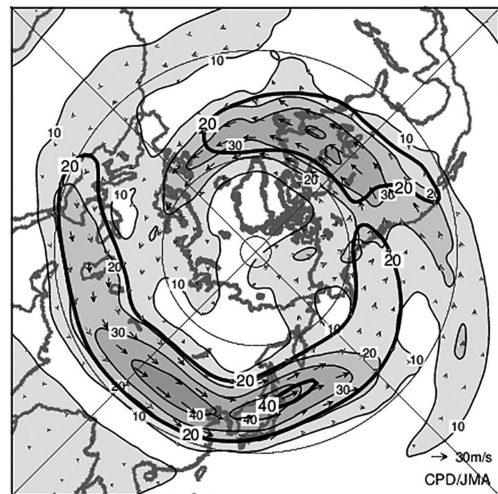
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

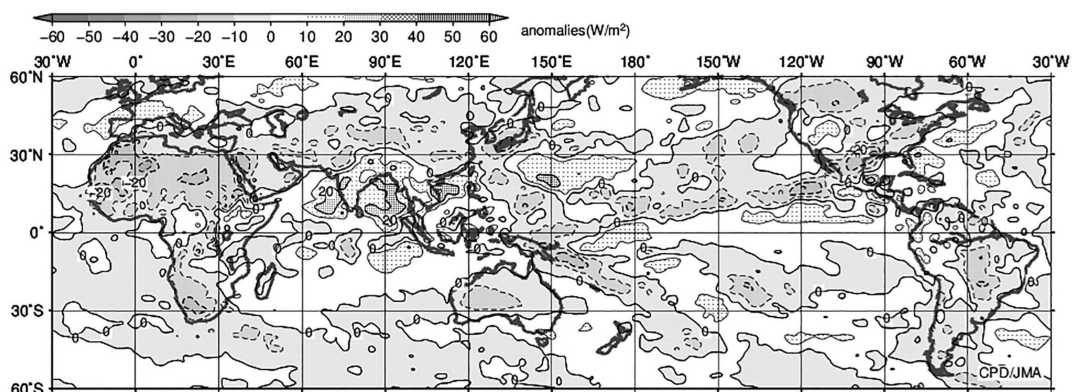
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



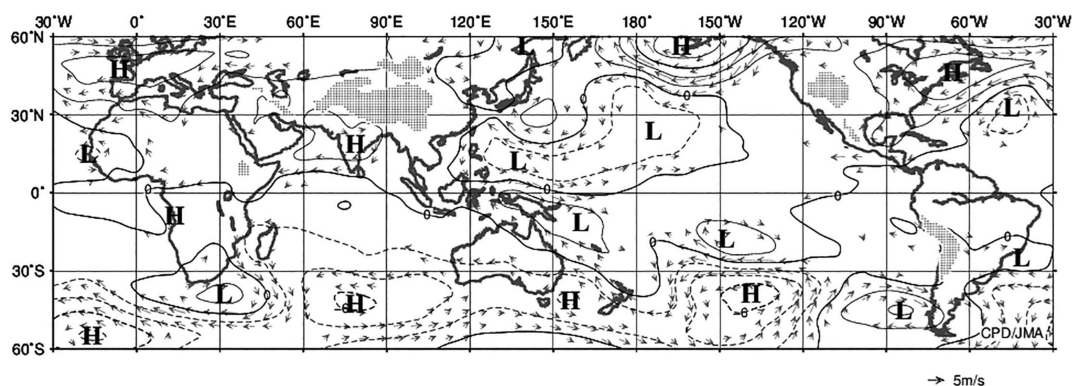
2018年9月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



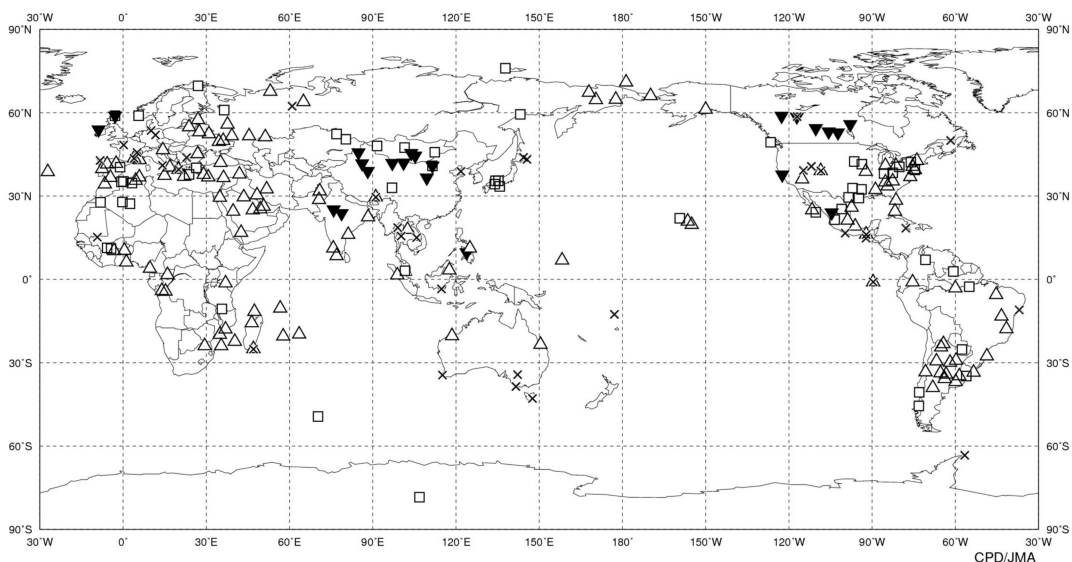
2018年9月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2018年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2018年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。